

農業と観光、環境が連携した まちづくりを目指して

「そのまち」ふらのの

富良野市は、北海道の中心標が立ち「北海道のへそのまち」と呼ばれる人口約2万5000人のまちです。毎年7月28日、29日には市民の親子の絆を深める「北海へそ祭り」が開催され、多くの市民や観光客が、お腹にユニークな絵を描き、へそ踊りを楽しんでいます。

観光と農業を両輪に

本市の面積は、600・97km²に及び、約7割を山林が占め、大雪山系と夕張山系の山並みと、農作物が織り成す田園風景は、訪れる人々に癒やしと安らぎをもたらします。本市の優れた観光資源となっています。また、栽培される農作物は、内陸性気候による昼夜の寒暖の差からおおいしさを増し、安全で安心

な農業が、本市の基幹産業となっています。さらに、それら素材を活用した多様な農産加工は、ふらのワインやふらのチーズなど、富良野ブランド力を高めています。一方、パウダースノーの雪質と変化に富むコースを持つ富良野スキー場では、これまでにFISワールドカップスキー大会が10回、近年ではFISワールドカップスノーボード大会も2回開催され、世界に誇れる冬の観光拠点として多くの人に利用されています。

昭和56年から放映された脚本家、倉本聰氏によるテレビドラマ『北の国から』は、市内麓郷地区を舞台に自然に恵まれた富良野の魅力とそこに住む人の素朴な家族愛と人間愛が描かれ、都会に住む人々を魅了し、多くの富良野ファンを生みました。また、『優しい時間』や

『風のガーデン』も放映され、富良野の魅力度を高めてきました。このような自然や農業など地域資源や特性を生かした取り組みにより、現在では年間約200万人の方が本市を訪れ、平成20年には観光庁から、全国16カ所の観光圏の1つとして富良野美瑛広域観光圏が認定され、体験滞在型観光の推進と外国人観光客の拡大を目指しています。

ごみの資源化リサイクル

本市では、限りある資源の再利用を目指し、「燃やさない、埋めない」を基本理念に、平成13年度からは14種分別によるごみ処理を市民一丸となって取り組んでいます。昭和58年に開始したごみの3種分別収集をスタートに、昭和60年には有機物供給センターでの生ごみ



ごみの資源化を行っているリサイクルセンター

光資源としても期待されるものとなっています。

新たな中心市街地活性化

本市の中心市街地では、空き店舗や空き地が発生する中で、平成13年には「富良野市中心市街地活性化基本計画」を策定し、駅前地区4・2haの土地区画整理事業および市街地再開発事業に取り組み、再開発ビルにまちなか居住を目指す公営住宅と健康増進施設となる中心街活性化センター「ふらっ

と」を整備、年間延べ8万人に利用され、市民の健康づくりと、新たな町並みが形成されました。

しかし、平成19年には隣接する中心市街地領域にある市内唯一の総合病院である富良野協成病院が駅東側に移転となり、商店街の集客力を高める多機能なコンパクトシティを形成するために、市民、関係団体が連携した富良野市中心市街地活性化協議会（法定協議会）を設置し、新たな活性化策を検討。

平成20年11月には、内閣府より新たな富良野市中心市街地活性化基本計画の認定を受け、その第1段階として、TMOであるふらのまちづくり会社が主体となり、病院跡地を活用し、富良野情報の発信や特産品を提供する「フーノ・マルシェ」が平成22年4月にオープンしました。当初利用見込みを大きく上回り、開設以来、40万人を超える利用があり、これまで市街地内を訪れることが少なかった観光客を回遊させ、周辺商店街への流れが生まれています。

今後、ネーブルタウン市街地再開発事業が市民の地域力で進められており、中心市街地活性化を協働で進めていく予定です。

人を育て地域を育てる

（株）ブランド総合研究所が毎年実施している地域ブランド調査では、本市は、本年度結果でも市町村の魅力度で全国8位の評価をいただきました。本市に移住された方も多く、人口減少率が低下し、平成12年には過疎市町村の指定から外れましたが、少子高齢化によりいまだ減少傾向が

続いています。また、農家や商店の高齢化も進み、地域の担い手や後継者が不足しています。今後、地域力を高め、活性化を促進するためには、地域の人材を育てていくことが重要と考えております。現在、平成23年度からスタートする第5次富良野市総合計画を策定しており、新たな富良野を創造してまいります。



夏のラベンダー畑

プロフィール

- ◆ 面積 600・97km²
- ◆ 人口 2万4143人
- ◆ 世帯数 1万800世帯

〔将来都市像〕安心と希望、協働と活力の大地「ふらの」

〔まちの特徴〕北海道のほぼ中央に位置し「へそとワインとスキーのまち」として、西に夕張山系芦別岳、東に十勝岳連峰に囲まれ、清流空知川がもたらす肥沃な大地に、農業と観光を基幹産業に発展する田園都市

〔特産品〕ふらのワイン、ふらのぶどう



富良野市長 能登芳昭



う果汁、ふらのチーズ、ふらの天然水「原始の泉」

〔観光〕風のガーデン、北の国から資料館、ふらのワイン工場、ふらのワインハウス、ぶどう果汁工場、ハイランドふらの、ニングルテラス、富良野演劇工場、麓郷の森

〔イベント〕北海へそ祭り、ふらのワインぶどう祭り、ふらのスキー祭り

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

東京の新たな発信拠点となるか 動き出した中野駅周辺まちづくり

「起創展街」に思いを込めて

「起創展街」。中野駅周辺で進むまちづくりのキャッチフレーズです。可能性を顕在的な動きに「起」ち上げ、新しい財やサービス、情報・文化を「創」り出し、人々の動きをつなぎ「展」げる、意外性と出会いに満ちた「街」。これまでのまのイメージを大きく転換し、多様な価値を生み出す東京の新たな発信拠点を作る。そんな私たちの熱い思いを言葉にしました。

東京駅から高尾まで、東京の中心を貫くJR中央線。中野はその快速電車で新都心・新宿から1駅5分、区部から多摩まで西に長い東京の人口重心に程近く首都のほぼ真ん中に位置しています。下町的な人情と山の手風の文化性を併せ持ち、物価も安く買い物に便利、

活気もあるのに一歩入れば静かな住宅街で、住みやすさは折り紙つきです。しかし、まちの活力という意味では、立地の良さや知名度にもかかわらず、中野のまちは目立たない、特徴のないまちという印象でとらえられてきました。都市内では宅地化が早い地域だったことが、地の利を生かしきれない住宅一辺倒というイメージのまちなった理由であるともいえます。

清掃工場の建設が 選挙の焦点に

中野駅周辺のまちづくりが大きく動き出したきっかけは、中野駅の西北の直近にあった広大な警察大学校等が移転したこと。平成14年6月に私が区長に就任した当時は、この移転跡地に清掃工場を建設する計画がありました。

平成12年の特別区制度改革に伴う、東京都からの清掃事務移管に当たり、「区内処理の原則」の下、すべての区に清掃工場を建設することとなっていたためです。しかし、当時すでにごみの発生量は減少に転じていました。過剰な設備のコストは23区共同で行っている清掃事業にとって大きな財政負担になることが目に見えていたのです。

私は、この計画を見直し、幅広い区民の議論で新たなまちづくりの計画を作り直すべきだと主張して選挙を戦いました。当選後の最初の課題は清掃工場問題でした。私は、清掃工場の有無など、さまざまな立場の区民の状況を見定めながら、慎重に区長会で議論を始めました。全体としては時代の流れは一つの方向を示していたということもあり、程なく結論は出まし

た。清掃工場のない区のごみについても既存の工場で23区の共同責任で処理することとし、新たな工場は建設しないという新方針が23区で合意されたのです。そして、警察大学校等跡地をはじめとする中野駅周辺の新たなまちづくりの動きが始まることとなりました。

新たな都市機能と環境 安全が調和したまちづくり

過密な本区にとって中野駅前の広大な警察大学校等跡地は、非常に大きなまちづくりの資源です。新たな都市活動拠点としての期待は大きく、広域避難場所の一部にもなっている跡地にはまとまった緑もあり、環境・安全の両面からも重要です。それらを踏まえながら、国有地であるこの土地を、区と区民が望むまちづくりに誘導するため、区民や近隣住民、区内産業界など、多くの関係者と議論を重ねながら、計画をまとめていきました。

区庁舎とを一体的に再整備する構想が検討されています。駅前広場と接した2haの敷地の大規模開発が可能となるわけです。まちのにぎわいの中心となるこの整備は、将来のまちづくりを考えたととき、最も重要な課題の一つです。

中野駅南口でも広場に面して、市街地再開発事業の準備組合が結成され、新たなまちづくりの動きが本格化しています。

日本にしかできない 都市の未来を

まちづくりは単なるハードの都市整備だけではありません。そこでどんな活動が行われ、どんな価値が発信されるのか、人々の暮らしや文化、産業などが、どのように変わっていくかを演出することができれば、自治体がかちづくりの旗を振る意味はないと思います。現在、区では、中野駅周辺のまち全体をトータルにとらえて、まちの将来をリードするためにどのような産業や都市機能をもつよう方法で誘導するべきか、ユニバーサルデザインに基づいた誰にとっても活動しやすいまちの在り方、ICTを活用した便利で、



整備が進む警察大学校跡地(平成22年12月)

楽しく、誰もが暮らしやすい施設やサービスの在り方などを検討しています。

日本は、経済が成熟して成長分野が見いだせない中、少子高齢化や人口減少が進み、縮小均衡型の社会になりつつあるといわれています。

プロフィール

- ◆面積 15・59km²
- ◆人口 31万1747人
- ◆世帯数 17万5932世帯

〔将来都市像〕多彩なまちの魅力と支えあう区民の力

〔まちの特徴〕東京23区の西部に位置し、新宿から5分という近さにもかかわらず、多くの商店街や落ち着いた住宅街という暮らしに密着したまちの性格を持っています。中野駅北口には、ランドマークである「中野サンプラザ」、サブカルチャーの発信地として有名な「中野ブロードウェイ商店街」があり、海外からの観光客も含めて多くの方が訪れています。また、中野を南北に貫く中野通りは、桜の名所として親しまれています。



中野区長 田中大輔



〔特産品〕毎年「中野の逸品グランプリ」を開催し、中野ならではの「おいしさ」を発信しています

〔観光〕中野サンプラザ、中野ブロードウェイ商店街、哲学堂公園(東京都名勝指定)、野方配水塔(国の有形文化財登録、新井薬師)

〔イベント〕中野通り桜まつり(4月)、中野チャンプルフェスタ(7月)、江古田の獅子舞(10月)、中野まつり(10月)、中野にぎわいフェスタ(3月)

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「市民が幸福を実感できるまち かみす」を目指して

はじめに

神栖市は、茨城県の最南東部に位置し、東京からは100km圏内にあります。東関東自動車道の利用により、時間距離にして約1時間30分です。

東は太平洋の鹿島灘、南西は利根川を経て千葉県に面した細長い形状をしており、豊かな水資源に恵まれていることから、古くから農業や漁業が盛んです。

夏は比較的涼しく、冬は温暖な気候であることから、日本一の生産量を誇るピーマンをはじめ、正月飾りに欠かすことのできない干し、若松などの特産物があります。

水産業については、県内最大の漁業基地である波崎漁港を中心として、全国でも有数の水揚げと水産加工品生産量を誇っています。

師を確保しました。

また、本市への地域医療を志す医師と人材の定着を図るため、平成22年10月に「神栖地域医療研修ステーション」を市内の中核病院に設置しました。これは、県内にある筑波大付属病院から指導医1名を派遣してもらい、地域に根ざした医療教育・研修を行う拠点とするものです。地域医療の実践の場の提供と専任の指導医らによる充実した教育体制の両立を図り、地域医療を志す医師の養成を目指します。

また、近年、母親をはじめとした就労希望の増加などにより待機児童が全国的に増加しています。



鹿島港および鹿島臨海工業地帯

観光については、環境省の「快水浴場百選」に認定された「波崎海水浴場」などがあり、シーズン中には、海水浴、サーフィン、釣りなどを目的に、県内外から、たくさんの方々が訪れます。また、夏休みや冬休みには、小学生から大学生までのサッカーを中心としたスポーツ合宿が行われており、年間約30万人が本市を訪れています。

鹿島開発

本市には、鹿島港という世界でも最大級の人工掘込式港湾があります。

昭和36年に鹿島臨海工業地帯造成計画が作成され、旧鹿島町、旧神栖町、旧波崎町の区域に巨大な人工掘込式港湾を中心とした鉄鋼、石油化学、電力などの総合臨海工業地帯を建設し、茨城県南東部の

私は、就任以来、待機児童の解消に向け、保育施設の整備、充実に取り組みできました。その結果、5年間で、私立保育所が7カ所設置・開所され、430人の定員増を行いました(平成23年4月時点)。また、本市では、第3子以降の保育所保育料の無料化を実施しており、充実した子育て支援をしています。

人をはぐくみ、若者を育てるまちづくり

子どもたちの安全・安心な教育環境を確保することが第一と考えており、学校耐震化事業に取り組みしています。さらに、本市独自の取り組みとしては、市内の全小中学校をはじめ、各児童施設へ防犯カメラを設置し、児童生徒を犯罪から守っています。

また、近年、子どもの学力低下が問題となっていますが、未来を担うすべての児童生徒が確かな学力を身につけるため、本年度から3カ年計画の神栖っ子学力向上プランを策定しました。

小学校では、40人学級が標準ですが、茨城県では少人数学級を既に1年生から4年生で実施しています。本市では、この少人数学級

中核拠点づくりを目指した国家プロジェクトが開始されました。現在では市内立地工場数160余り、平成21年度製造品出荷額約1兆2000億円となり、国内でも有数の産業拠点として発展を遂げています。

まちづくり

私は、この力強く躍進を続ける神栖市の市長として現在2期目を迎え「神栖市に住んでよかった」と言っていただけのもちづくりを全力で取り組んでいます。

しかし、経済不況や本格的な少子高齢化を迎えるなど、地方自治体を取り巻く状況は大変厳しいことから、政策に優先順位を付した上で、効果的な市政運営が求められています。

私は、このような状況において、を、5年生に、平成23年度からは6年生にも拡大し、よりきめ細やかな学習指導を行っていきます。また、中学校には、教員免許を持つ学習指導補助教員を配置し、重点教科の少人数指導などにより生徒の学力向上を目指しています。

結びに

本市の出生率は、県内1位、ま

将来の本市を担う子どもたちのため、市民が安心して子どもを生み育てる体制づくりが必要と考え、積極的に進めています。

安心して子どもを生み育てる体制づくりについて

本市の直近の合計特殊出生率は、1.37です。これを少しでもアップするために、5年間で最大150万円の不妊治療費の助成や中学校卒業までの医療費の無料化を実施しています。さらに、医師不足が深刻な問題となっている中で、すべての市民が健康で安心して暮らすためにも、地域医療の医師不足解消は、非常に重要と考え、独自の医師確保事業にも取り組んでいます。具体的には、市内医療機関において小児科をはじめとする医師を新規に雇用した場合に、その医師報酬に対し補助金を交付するというものです。平成20年度からこの取り組みを始めて、非常勤医師を含め、これまで12名の医

た、子どもの人口割合は、15.8%と全国平均の13.3%に比べ、2.5ポイント上回っています。このことは、本市の子育て支援への評価の表れともいえますが、単なる子どもの人口増にとどまることなく、未来の神栖を担う子どもたちの健全な育成のために、各種の事業を推進していきます。

プロフィール

- ◆面積 147.26km²
- ◆人口 9万2496人
- ◆世帯数 3万5307世帯

〔将来都市像〕市民とともにつくる「躍進する中核都市」かみす

〔まちの特徴〕東は太平洋の鹿島灘、南西は利根川に面した細長い形状をしており、鹿島港を中心とした鹿島臨海工業地帯には、国内でも有数の石油・化学コンビナート群を形成している

〔市町村合併〕平成17年8月1日、神栖町、波崎町が合併して神栖市が誕生



神栖市長 保立一男



〔特産品〕ピーマン、干し、若松、花卉、メロン、鹿島灘はまぐり、いわし、水揚げされたいわし・さばを使った水産加工品(さくらほし、缶詰など)

〔観光〕港公園、鹿島港、国重要文化財山本家住宅、息栖神社、日川浜海水浴場、波崎海水浴場

〔イベント〕かみす桜まつり、港まつり、神栖市長杯波崎サーフィン大会、神栖夏まつり、七夕まつり、さらっせ祭り、波崎トライアスロン大会、かみす舞っちゃげ祭り

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

人材育成を重視した 藤枝型新公共経営

はじめに

藤枝市は静岡県のほぼ中央に位置し、奈良時代から花開いた豊かな街道文化を中心に、東海道五十三次の宿場町、また城下町として、農工商さまざまな産業がバランス良く栄えてきた歴史あるまちです。

富士山静岡空港や新東名の開設、現東名のインターチェンジの新設などで人々の往来がさらに活発となる今、住みやすく、訪れて楽しめる、誇りと活気に満ちた「元気なまち藤枝づくり」に向け、全市を挙げて取り組んでいます。

平成23年度からは第五次総合計画もスタートし、さらに本格的に多様な施策を展開する予定です。

新公共経営の実践 「藤枝型NPM」とは?

民間企業の経営手法を行政に取り入れようという新公共経営(NPM)の考え方は、現在多くの自治体に取り入れています。本市は市政を直接担う職員の人材育成を特に重視した独自の「藤枝型NPM」を進めています。

基礎自治体は日々市民と接し、市民サービスの最前線で働きます。限られた職員数と財源でいかに市民の満足度を上げるかは、職員の「質」が大きく影響します。藤枝型NPMは、その柱として①時代に対応できるマネジメント、②組織内連携の強化、③職員の意識改革を掲げていますが、特に藤枝型の土台ともいえるのが③であり、私

組織の仕組みやルールはいろいろとつくれますが、それを実践する職員のモチベーションや意識が低いままでは、質の高い市民サービスを目指せません。もつと仕事を良くしたい、変えたいという改革・改善意識の高い職員を育てること、仕事の効果は何倍にもなる。そのためあらゆる手法を今実行中です。

すべてを一から見直す 「全事業の総点検」

昨今、国や一部の自治体で行っている事業仕分けにはさまざまな意見もありますが、改革意欲の高い職員を育てる見地からは、地域事情や業務内容をよく知らない外部の仕分け人に頼るより、仕事に最も精通した各職員が自ら事業目的の原点に立ち、一つ一つの事務

事業について市民のためにより良いやり方を探り、常に内容を見直すことが有効です。こうした作業を通じて、各職員が自ら業務マネジメントを確立していく。これは仕事改革と人材育成を同時に行える点で、大変効果的です。

もちろん、こうした見直しが行政だけに都合の良い結果とならないよう、本市は外部委員からなる行政サービス評価委員会を設置し、見直し内容のチェックや確認を公開の場で行っています。また、本年度からは市議会改革の一環として、この事業評価と決算審査に基づく政策提言を市議会の特別委員会が行うようになり、議会を含めた本市全体の構造改革が一挙に進んでいます。

市長当局と議会の両輪型自治という地方自治の本旨が、今、藤枝で形づくられようとしているのです。

また、藤枝型NPMは、切る・削るだけではなく、削減した費用をいかにもつと良い仕事に転換できるかに力点を置いています。平

市役所の変化と市民の声

こうしたさまざまな取り組みが功を奏してか、窓口や現場での職員の対応やサービス内容について、市民からの感謝やお褒めの言葉が増

自分たちで考え、改革していく職員を順調に増やしています。

プロフィール

- ◆面積 194.03 km²
- ◆人口 14万3778人
- ◆世帯数 5万1715世帯

〔将来都市像〕元氣共奏、飛躍ふじえた
〔まちの特徴〕市内を流れる瀬戸川の堤には、2.5 kmの桜トンネルがあり、市街地には総延長1.5 kmの藤棚を持つ蓮華寺池公園がある。サッカーのまちとして知られ、江戸時代には東海道五十三次の2つの宿場が置かれた、歴史と文化の香り高いまち

〔市町村合併〕平成21年1月1日、隣接の岡部町と合併

〔特産品〕朝比奈玉露、藤枝かおり(茶)、藤枝めぐみ(茶)、4つの蔵元



藤枝市長 北村正平



の名酒、藤里梨
〔観光〕瀬戸谷温泉ゆらく、玉露の里、蓮華寺池公園、大久保グラススキー場・キャンプ場、大旅籠柏屋
〔イベント〕日本一の長唄地踊り・藤枝大祭り、朝比奈大龍勢、金比羅山・瀬戸川桜まつり、藤まつり、藤枝花火大会、全国PK選手権大会 in Fujieda、藤枝マラソン、玉露の里お茶まつり、東海道藤枝宿いきいきまつり、東海道岡部宿にざわいまつり、ふじえた産業祭、せとやまるかじり

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

成21年度は全事業1039事業を総点検し、約12億円を削減しましたが、この一部を本年度の目玉事業や私のマネフェスト推進事業などの主要事業に新たに振り向け、効果的に活用しています。さらに、庁内分権の見地から、各部長に政策的経費として100万円ずつを委ね、自由な発想で新機軸の事業を展開するよう指示し、中枢幹部の知恵と工夫を引き出すインセンティブとしています。

若手の新鮮なアイデアを 市政に反映

若手の意見は新鮮で、独創的な発想が魅力的です。私は、現場を



1人1改善運動年間表彰

支える20代後半から30代前半の若手職員だけで改革プロジェクトチームを立ち上げてもらい、市政全体を眺め、市長になったつもりで改革案を出してもらおう仕組みをつくりました。この試みは成功し、戦略的広報や職員提案制度、人材育成の手法や公共施設の管理手法の見直しなど多くの改革提案が出され、そのほとんどが私の指示で既に実行されています。組織改革は、トップダウンとボトムアップの絶妙なバランスが大切。管理職から若手まで巻き込んで、職員全員で改革・改善を自発的に進める体制づくりが要ですが、各職員は今、見事にその期待に応えてくれています。

「1人1改善運動」

内部決裁のいらぬ、職員全員参加の自由な改革提案制度である「1人1改善運動」も、若手チームの提案に基づいています。庁内LANを活用し、各職員がいつでも書き込み可能で、その内容についてチャット形式で全員が自由に議論できます。身近な改善の案や実績を数多く提示してもらい、良い内容をたくさん表彰することで、

まちが人を育て、人がまちを育てる協働のまち

遠賀川に育まれた歴史と緑のまち

嘉麻市は、平成の大合併の中の平成18年3月27日、旧稲築町、旧碓井町、旧嘉穂町、そして旧山田市の1市3町が合併して新たに誕生した市であります。

福岡県のほぼ中央に位置し、政令都市の福岡市、北九州市、また中核市の久留米市のどちらへもほぼ1時間以内でアクセス可能なところにあり、縦に国道211号、横に国道322号が貫いています。

国道322号の八丁峠は、幅員も狭くカーブも多いため交通の難所といわれていますが、現在着工したばかりの全長4.5kmの国道322号八丁トンネルが完成し、すべての区間の整備が完了すれば、物流の拠点である北九州市から本

市を通り久留米市まで約2時間で往来が可能となり、主要幹線道路としての機能がより一層充実するものと思われまます。

また、本市は福岡県北部を縦断し、玄界灘に流れ込む母なる遠賀川の源流を有する古処、屏、馬見連峰の緑豊かな山ろくを南方に配し、緑に包まれた自然豊かなまちであります。市の面積の約7割は県立自然公園を含む山林と耕作地で水稲や果樹の栽培などが盛んに行われています。

古来、この地域は大和政権とのつながりが深く、遺跡や史跡から数多くの出土品が見つかっています。原田遺跡からは「有文小銅鐸」が出土し、沖出古墳からは九州で2例目となる「船」が線刻された埴輪や3種類の石製腕飾り(鉄型石・車輪石・石釧)が出土しました。ま

た、万葉の歌人、山上憶良が筑前国の国守として赴任した際、嘉麻の役所にて三首の歌を詠んだと伝えられ、その歌碑が稲築地区に建立されています。さらに、天正15年(1587年)、豊臣秀吉が九州平定のために南下した際に、秋月氏の投降に協力した当時の地元町民の労をねぎらい下賜したという国の重要文化財に指定されている華文刺縫陣羽織も保存されています。また、麟翁寺の境内には「酒は飲め飲め：」でおなじみの黒田節に歌われている「名槍日本号」を呑み取った槍の名手母里太兵衛の墓があり、歴史文化遺産も多く残されています。

こうした歴史や文化によって、市内では伝統的



豊臣秀吉から贈られたといわれる国の重要文化財指定「華文刺縫陣羽織」

な祭りや催しが各所で行われており、中でも750年余り続けられている県無形民俗文化財指定の「山野の楽」、五穀豊穣や家内安全を願う伝統獅子舞、また江戸時代に年貢運搬船の拠点があったことにちなんだ「八反田・川のぼりいかにだレース」などが行われ、多くの参加者でにぎわいます。

また、観光スポットやレジャースポットも整備されており、遠賀川の源流公園、県内指折りの梅どころとして毎年約1000本の梅が咲き誇る梅林公園、古処山遊歩道や豊臣秀吉も通ったと伝えられ

る古八丁越えなどはそれぞれの季節の顔を持ち、四季の移り変わりが素晴らしいと評判です。

かつての日本の産業を支えた炭鉱のまちから

明治末期になると石炭の採掘が始まり、農村から炭鉱のまちへと大きく変容を遂げ、やがて日本最大の炭田「筑豊炭田」の一部として日本の産業を支え続けました。人々は石炭を黒ダイヤと呼び、夢を抱いて筑豊に集まり、それに伴い人口も急激に増え、活況を呈しました。しかし、昭和30年代から

の高度経済成長期に入ると、国のエネルギー政策の転換で、石炭から石油へと需要が移り、たちまちに数多くの炭鉱は閉山に追い込まれ、激動と波乱に満ちた石炭産業の歴史は静かに幕を閉じました。

炭鉱に従事した多くの人々は、新しい生活の場を求めて都市圏へ流出し、人口も激減しました。しかし、近年は交通網を整備し、工業団地を造成して企業誘致に力を注いできたことによって、自動車部品や電子部品、金属部品製造業などの優良企業の進出が増えて新たな本市の顔が生まれようとしています。また、こうした取り組みを行いながら、既存の主要産業である農業にも力を入れてきました。現在、豊かな大地と遠賀川の恵みにより生産される米をはじめとした農産物などのブランド化などが進められています。

市民と協働のまちづくり

平成18年に合併して誕生した本市ですが、もともと財政状況が厳しい自治体同士の合併ですから、やはり本市も厳しい財政からのスタートでした。合併自体が究極の行政改革ですが、今日まで議員

数を64名から26名に減らし、職員数も合併後9年間で約150名を削減する計画を進めており、合併前には10カ所あった公立保育園も本年度から半分の5カ所を民間へ移譲するなど、市民の協力を得ながら積極的に行政改革を推進し進め、何とか財政の健全化の兆しが見えてきたところでございます。

また、本市は本年度、近隣の都

市に先駆けて自治体の憲法ともいえる「自治基本条例」を制定し、市民が自治の主体であることを基本理念として、市民などの権利と責務、議会の役割と責務、そして市長および市の役割と責務を明確にしながら、すべてが情報を共有してすべてが市政に参画できる、協働のまちづくりの実現を目指しています。

プロフィール

- ◆ 面積 135.18km²
- ◆ 人口 4万4444人
- ◆ 世帯数 1万9520世帯

〔将来都市像〕遠賀川ハートフル嘉麻の里の創造

〔まちの特徴〕福岡県の中央に位置し、遠賀川の源流を有する緑豊かな人と自然にやさしいまち

〔市町村合併〕平成18年3月27日、山田市・碓井町・嘉穂町・稲築町の新設合併

〔特産品〕米、梨、りんご、巨峰、菊



嘉麻市長 松岡 賛



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



福岡県無形民俗文化財「山野の楽」